



防災 まちづくり の 返版

昭和62年7月1日

発行「一寺言問を防災のまちにする会」

まちづくり計画を区長に提出

区長 積極的な後押しを約束

昨年来検討を重ねてきた「一寺言問の防災まちづくり計画」が、六月二日、奥山澄雄区長に手渡された。

計画は、一寺言問地区の防災まちづくりの基本的な方針と、それらを進めるための姿勢を示したもので、「一寺言問のみち」づくり、墨堤の再生、寺社や公共施設の応急利用など、十四項目の内容が盛り込まれている。一言会では、これらに加えて計画推進のために早速取り組んでほしいものとして、①東向島一丁目の高田製菓跡地（約三百坪）の早期買収 ②福田川沿いの道や公園の改良 ③墨堤通り沿いの大工場等の緑化指導 ④旧墨堤之道の遊歩道化、など七項目を特別に要請した。

区長は、二の計画に基づいてまちづくりをすすめていくことを約束した。一言会は、計画の具体化に向けて個別の検討にはいる。



提案書の内容を説明する副武会長 - 墨田区庁舎で

六月二日(火)二時より区長室において、「一寺言問の防災まちづくり計画」が副武勝副会長から奥山墨田区長に手渡されました。

区長から「単にモデル地区で終わってしま、ては仕方がない。本当の意味でモデルになり得るようには、区もこの計画に基づいてまちづくりを進めていきたいと考えています」と、あいさつがありました。

いくぶん緊張気味だった一言会

旧墨堤之道の遊歩道化など計画の具体化へ

昨年十二月の一言会発足以来、検討を重ねてきた「防災まちづくり計画」が、このほどまとまった。当初の原案に比べて大きく変わっていないものの、よく見ると細かな表現方法に至るまで修正、加筆され、計画検討の一念さが伺える。

のメンバーに、区長が「この計画を提出したことで一言会が解散するということはないでしょうね。これからですから、その辺が一番気がかりです」といった一言で一同爆笑。リラククスできたところで、区長との懇談会に移りました。

開発促進課の長塚課長から一言会のメンバー紹介後、副武会長のあいさつに始まり、須賀事務局長から一言会とわいわい会の説明がありました。

④路地専の設置などについて、個別の検討がはじまるものと思われる。またその検討は、関係住民、関係各機関が協議する場が設定され、おこなわれるものと思われる。「できるだけ早く具体化した」「じっくりと協議したい」、まち

現在子育て中のメンバーより、「子供たちが大きくなって、このまちで育って良かったと思えるようなまちづくりをしていきたい」と、未来に向けての抱負が述べられ、また「寺社、旧跡など歴史的に由緒あるものを他地区にも誇れるようなものとして大切にしていきたい、それをこの地区の活性化にも役立てていくようにできたら」という意見がありました。

長老格のメンバーより、「まちづくりとはあせらず時間をかける專業だが、自分たちが健在のうちにはいつでも実現できるものは、やっていきたい」と、意欲的な発言もありました。その他、一寺言問地区の交通の便を改善してほしいという要望も出されました。三十分ほどの懇談会は、笑い声のある和やかな雰囲気で行われました。「若木菊枝」

副武一言会会長の談話

本日、私を含めた六町会の町会長さん及び理事の方々、そしてわいわい会の理事の方々のご協力をいただき、無事区長提案を済ませることができました。何かひとつの大きなハードルを越えた思いです。

奥山区長には、一寺言問地区の特性をよくご理解していただき、行政サイドからの積極的な後押しを約束していただきました。

私としてはこのまうづくりの仕事を、「相手を信頼し、また相手に自分を信頼していただく」というおなりの人生観のまもりにしていきたくと考えております。住民同士のつながりを大切に保てるまちづくりをめざし、より多くの方々のご理解をいただくように、誠意を持って今後の活動にあたりたいと思います。

